

平成18年度 教師海外研修（派遣国：サモア）実践報告書

1. タイトル SAMOAN ART
2. 氏名 兒島 正子
3. 学校 大阪府吹田市立片山中学校 担当教科 美術
4. 対象生徒 2年生1組～7組（36名×7クラス） 時間数 10時間（50分授業）
5. カリキュラム案

（1）実践の目的

サモアの伝統文化・生活・自然を生徒に伝える方法として、サモアの音楽の同じフレーズを歌ったり、リズムよく踊ったり、衣類を身にまったり、食したりして生徒の心に響き、印象に残るものにしていきたい。そして、サモアという国に親しみや興味をもつ中で、子どもたちの絵を通して、伝統文化や身近な自然を大切にしている人々の姿を生徒に感じさせたいと考える。

そして、サモアと日本の違いを実感する中で日本のように経済的・物質的な豊かさはサモアにはないものの、それらとは違う「豊かさ」の価値がサモアには存在することを知って欲しいと思う。それは、日本ではあたりまえ過ぎて気付かない「自然」「住まい」等を大切に感謝の気持ちをもっていきっていくサモアの人々の心である。それらのことをただ一方的な情報の伝達方法ではなく、現地の子どもたちに描いてもらった絵を通して日本の子どもたちの心に訴えかけていきたい。また、このような気づきを通して、日本について、自分について、身の周りについて生徒が考えていけるような展開へと発展させていく。

次にサモアの美術の教科書を参考に、オセアニア・アートの鑑賞と制作に繋げていく。オセアニア・アートやアフリカン・アートは称して「プリミティブ・アート」と呼ばれ、美術史においても重要な役割を果たしている。その作品の地域独特の形やパターン・色合い等は西洋美術に比べると原始的で単純、稚拙に感じるかもしれない。

しかし、「プリミティブ・アート」は偉大な画家や人々に多くの影響を与え、今も尚、人々の心の奥底まで訴えかける力を持っている。そのようなオセアニア・アートの鑑賞・制作を通して、「つくることの原点」を子どもたちに感じさせたいと考える。

プリミティブ・アート…先史時代の原始人および現存の部族社会の美術を指す事が多い

（2）実践上の工夫

- ① 2年生は1年時に「お面って面白い!」の授業の中で、世界の仮面の鑑賞と制作をしてきた。そこでは、オセアニア・アジア・アフリカ等のお面とその意味についても触れてきた。これらの既習学習をうまく思い起こさせ、深化させていきたい。
- ② 現地で集めた写真やビデオ、また物を有効に活用し、生徒がサモアをより身近に感じることでできる工夫と、サモアと日本の子ども達の絵の交流を通じて、地理的・社会的な距離を縮める工夫をしていく。
- ③ 今回の学習が、単独で終わることのないように「プリミティブ・アート」と西洋の関係を示す中で、普段の美術との繋がりを生徒が見いだせるようにしていきたい。そして、作品制作を通じてつくり出す喜びとそれらを利用して生活を豊かにすることの素晴らしさをあらためて実感させたい。

(3) 授業の構成案

日程	テーマ・内容	使用教材
1時間 「サモアを感じる」	◎サモアの歴史的背景や文化を知ることにより今後の制作への興味を持たせる ◎サモアの大まかな概要を紹介 ◇サモアの「〇×クイズ」で人々の暮らしを予想させる(グループワーク) ◎答え合わせ・スライドショー・食べもの・物・動作	・ワークシート ・ノートパソコン ・プロジェクター ・お菓子・物
2時間 「伝統文化鑑賞&絵で交流1」	◎「これは何でしょう?」→サモアの日用品に触れさせる ・うちわ・タペストリー・たわし・服・アクセサリー・珊瑚礁 ◎サモアを体験しよう ◇サモアの衣装を身にまட்டுて記念写真を撮る ◎「フィアフィアショー」「カバの儀式」「ジャパンボックス」の紹介 ◇「サモアから感じたことを絵で表現しよう」制作 ◎サモアの子どもたちの絵を鑑賞	・日用品 ・デジカメ ・ノートパソコン ・プロジェクター ・ワークシート ・プリント ・作品
3時間 「伝統文化鑑賞&絵で交流2」	◇「自分にとって最も大切なものを絵で表現しよう」制作 ◇サモアの子どもたちの絵を鑑賞 ◇伝統文化や自然・身近なものを大切に共存しているサモアの人々に気づく ◇感想文 ◎感想文紹介後、まとめ	・ノートパソコン ・プロジェクター ・ワークシート ・プリント ・感想文
4時間 「プリミティブ・アートと西洋美術」	◎オセアニアの先住民の暮らしと美術の関わりについて触れ、オセアニアン・アートが生まれた背景を紹介 ◎オセアニア・アート、アフリカン・アートの鑑賞 ◎プリミティブ・アートとピカソについて ◇ワークシート ◇「プリミティブ・アートに挑戦しよう」 ◎大まかな制作のポイントの整理と順序の説明 ◇一人ひとりが違うサモアの写真をもとにプリミティブ・アートの制作	・写真 ・お面 ・ワークシート ・サモアの写真 ・画用紙 ・サインペン ・クレヨン等
5時間 「プリミティブ・アートの制作」	◎前回の整理と仕上げについて説明 ◎途中段階の作品の紹介 ◇作品仕上げ・振り返り ◎講評・まとめ ◎サモアにおける美術作品の特徴と自分たちの作品に生かす手だてを考えさせる ◎オリジナルスタンプの制作について ◇自分にとって最も大切なものをデッサンしてスタンプのモチーフにする(デッサンは宿題)・ワークシート	・サモアの写真 ・画用紙 ・サインペン ・クレヨン等 ・スタンプ ・ワークシート
6時間 「オリジナルスタンプ」	◎デッサンしてきた絵を元にデザイン化 ◎簡略化するためのポイント ①特徴をつかむ②必要な形の整理③デフォルメ④決定 ◇アイデアスケッチを数多く描く ◇グループワークで相互評価後、決定	・作品見本 ・プリント
7~10時間 「制作」「鑑賞」	◎転写◎彫る作業◎仕上げ◎鑑賞・振り返り	・ゴム印・カッター

6・授業の詳細・授業の様子

(1時間)「サモアを感じる」

- ① サモアの歴史的背景や文化を知ることにより今後の制作への興味を持たせる取り組み
- ② 「豊かさ」について子どもたちにいろんな視点から考えさせる
- ③ 自分自身がサモアで体験したことを中心に写真やものを使って説明する
- ④ 子どもたちがより興味・関心をもてるようにクイズ形式でサモアを知る

(2時間)「伝統文化鑑賞&絵で交流1」

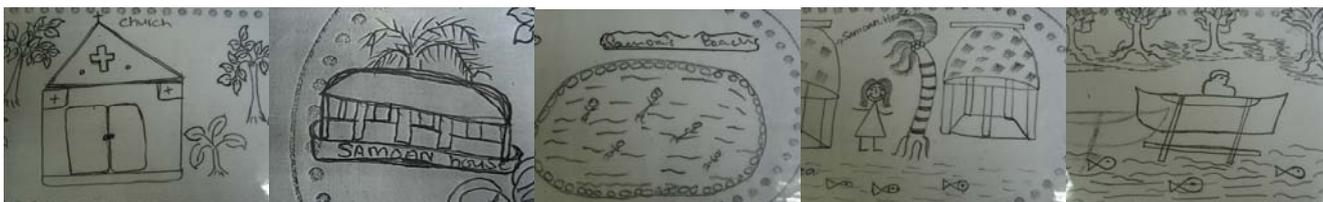
- ① モノランゲージ (たわし・ラバラバ・うちわ・新聞・首飾り・タペストリー・珊瑚礁)
- ② サモアの衣類を身にまとう (写真参照)
- ③ 「フィアフィアショー・カバの儀式・ジャパンボックス」紹介・鑑賞

「サモアから感じたことを一枚の絵で表現しよう」サモアの一番印象に残っていることを表現する
サモアの子も達の絵「日本のイメージを一枚の絵で表現しよう」を紹介する (下はサモアの子も達の作品)



(3時間)

- ① 「自分にとって大切なものを一枚の絵で表現しよう」自分の生活で一番大切なものを表現する
- ② 一人ひとりの作品を紹介した後、サモアの子も達の絵を紹介する (下はサモアの子も達の作品)



- ③ サモアの子も達の絵をみて感想を述べる (自然物が多い・身近なもの・日本では大切にされていないもの等)
- ④ 自然や身近なものと共存して生きていくサモアの人々の暮らしを想像し、自分とは違う考えに気づく。(幸せの価値観は国によって様々)

(4~5時間)「プリミティブ・アートと西洋美術」

- ① オセアニアン・アート、アフリカン・アートの鑑賞 (マオリの彫刻・アシャンテ族・マコンデ彫刻等)
- ② プリミティブ・アートのよさとその特徴を生徒に考えさせる
- ④ ピカソの生涯を通してその変貌とアフリカ彫刻の関係性について知る
- ⑤ サモアの写真をもチーフにプリミティブ・アートに挑戦する⑥鑑賞と振り返り

(6~10時間)「オリジナルスタンプの制作 鑑賞」 3学期に取り組む予定



マオリ彫刻

マコンデ彫刻

サモアの衣装

「サモアから感じたことを一枚のイラストで表現しよう」

7. 生徒の作品

◎ 「サモアから感じたことを一枚の絵で表現しよう」



◎ 「自分にとって最も大切なものを一枚の絵で表現しよう」



◎ プリミティブ・アートに挑戦



◇ 生徒の感想

- サモアの人達はとても明るく陽気な人達だと思った。私たちがサモアを想像して描くのと同じで日本の文化や建築物を知らないのに想像してあんなに描けるなんてびっくりした。サモアではすごく自由で、自然が多くてとても個性があり、たくさんの文化があり、どこの国でも文化や習慣・人種・環境は違っても、最終的にはみんな同じなんだあと授業を通して感じました。
- フィアイヤードダンスはビデオを早送りしているみたいで「本当にやっているのか？」と思いました。サモアは伝統文化が受け継がれている国だと思いました。
- 日本は欲しいものがあれば何でも手に入る、便利な機械もある。だから、最初はサモアの人々はかわいそうと思った。しかしこの授業を通して、そうでないことがわかった。やっぱりそれぞれの国には違った文化や習慣があり、それぞれいい所があるんだと思った。日本に行ったことのない人が多いのに日本でいる私たちより、日本の絵がうまくてびっくりした。
- 日本のイメージの絵をみてサモアの子たちのイメージは中国が混じっていたけど、こっちのサモアのイメージも絵もあやふやだったからお互いさまだなと思った。
- 伝統や祖先から受け継がれてたものを非常に大切にする人達だとおもった。
- サモアは食べ物や文化、服装、言葉が日本と全く違う国でいろんなことを学びました。海がすごくきれいで印象に残りました。少し貧しい国で私たちが生んでいる日本とは全く違う。サモアから見た日本は金持ちで、私は幸せなんだなと実感しました。いくら貧しくても一生懸命生きようとするサモアの人々を日本人は見習わなければいけないと思いました。日本にあるものがサモアにはない、サモアにあるものが日本にはない。それが「世界の国々」ということだと思いました。

- 私が思っている大切なものとサモアの人たちが思っている大切なものが全然違っていた。自分の家が大切だという発想は自分の中にはなかったと思います。日本では自分の家があって当然な人は多いからそんな感覚はないのだと思います。私も自分の家や自然を大切に思っていきたいです。
- サモアは、日本みたいに便利なところじゃないけれど、自然を愛し、とてもいい文化があり、いいところだと思う。文化の一つファイヤーダンスはとてもきれいですごく特訓したんだなと思った。一年中、冬がなく、暖かいところというのは知らなかったし、日本の車がサモアに使われていて日本のイメージは実際の日本とはちょっと違うけど、どれもよいイメージでうれしかった。
- 時差が23時間あったり、全く違う文化のある国だと思ったけど、マクドナルドがあったり、携帯電話があったり、意外と日本に近い部分もあってすごいなあと思いました。日本より、不自由な事があったりする国だろうけど、昔からの伝統文化を大切にしていたり、人が仲良く暮らしているように感じました。サモアの同じ年くらいの子と話したりしてみたいなあと思いません。興味がわきました。
- サモアは経済的には豊かとはいえないけれど、サモアの心は豊かなんだと思いました。そういう国に生まれてもよかったと思う。自然がいっぱいあるところも海がきれいなところも日本は少ないからサモアが少しうらやましい。一度だけでもサモアに行ってみたいなあと思いました。
- サモアの文化は日本古来の文化に似ているなあと思った。「自然を敬い、感謝する」このことを日本は世界に示していかなければならない。今の人は自然の大切さを忘れている。サモアの人はこの大事なことを忘れていない。立派だと思う。

8. 所感・反省点・今後の改善点

生徒たちにとってはサモアという今まで全く知らなかった国についての学習ということで導入の工夫とできるだけ体験を中心に生徒が肌で感じることをできるように授業の展開を進めていった。

サモアという国について授業を重ねていくとだんだん生徒の方からいろんな質問ができるようになってきた。たとえば、家に壁がないのに泥棒は入らないの??そこでサモアの治安の話をしたり、サモア人の性格について触れることができたりした。生徒の意見を取り入れながら、私自身の手探りの部分も多くあったように思うがそれがいい結果になっていくことが多かったのがよかった。また、美術という教科性もあって、言葉が通じなくても万国共通語である子どもたちの絵を通しての交流は非常に有意義なものだったと思う。絵はものをみて美しく表現することだけではなく、その人の思いや願い、またそれぞれの国の特徴・社会背景がストレートに表現されていて自分でも大変興味深かった。

しかし、私の今回の研修が短期間であったことやそれまでの事前の情報収集の少なさから、サモアの良い点ばかりが取り上げられる授業になってしまったと反省している。

良い部分と悪い部分の両方を見比べながら、その国についてもっと伝えていくことができたと思う。そこでより深まりのある生徒に考えさせる時間を作り出すことができたかもしれないと思うと大変心残りで、それが今後の課題であると考えている。

今回の授業を通して、従来の美術の授業の枠にとどまることなく、今後も自分が楽しい・興味のもてる、そして生徒にとって意味のある授業をしていきたいとより強く思った。